

2026年度	科目名	応用行動分析学特論
	英語名	Advanced Seminar on Applied Behavior Analysis
	科目属性	専門科目B群
	担当教員	松崎 敦子
	単位数	2単位(SC 0.5単位)

【授業の目的・ねらい】

【授業概要】

この授業では応用行動分析学の基本的概念を確認した上で、「関係フレーム理論」を理解し、ヒトの行動を変容させる方法を考えます。そして各々が臨床場面で関わる対象者やその家族の問題を機能的・文脈的観点から分析し、その問題に対応するためのアプローチ方法を考えます。

【授業の到達目標】

1. 応用行動分析学の基本的原理を理解する。
2. 応用行動分析からみた言語と認知：関係フレーム理論を理解する。
3. 臨床場面で体験している(した)対象者やその家族の問題を、機能的・文脈的観点から理解する。
4. 対象者やその家族が問題に対応するためのアプローチ方法を論理的に導き出す。

【授業計画】

全 15 回の授業計画は以下の通りです。

第1回：認知・行動療法、行動的心理療法、機能的文脈主義についての概要

第2回：問題を行動のカタチ(形態)から捉える

第3回：行動を観察する

第4回：文脈の中で行動を捉える

第5回：レスポンド条件付け

第6回：オペラント条件付け(1)

第7回：オペラント条件付け(2)

第8回：関係フレームづけ(1)

第9回：関係フレームづけ(2)

第10回：ABC分析を応用する

第11回：機能分析と行動変容に向けての会話

第12回：3つの原理と実践をつなぐ

第13回：実践の原則(1)

第14回：実践の原則(2)

第15回：行動分析学で考える言語行動と学習、そして私たちの日常

【評価方法】

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(レポート方式;50%)を総合して評価します。

【教科書】

1. ユーナス ランメロ/ニコラストールネケ著、松見淳子監修、武藤崇/米山直樹監訳(2010年)「臨床行動分析のABC」日本評論社(ISBN-13: 978-4535983007)

【参考図書】

<応用行動分析学の基本を学ぶ>

1. 杉山尚子/島宗理/佐藤方哉/リチャード W マロット/マリア E マロット著(1998年)「行動分析学入門」産業図書(ISBN-13: 978-4782890301)
2. レイモンド G ミルテンバーガー著、園山繁樹/野呂文行/渡部匡隆/大石幸二翻訳(2011年)「行動変容法入門」二瓶社(ISBN-13: 978-4861080258)

<応用行動分析学の応用を学ぶ>

3. 芝田寿美男著(2017年)「臨床行動分析のすすめ方—ふだんづかいの認知行動療法」岩崎学術出版社(ISBN-13: 978-4753311231)
4. ジョン ベイリー/メアリー バーチ著、澤幸祐/松見淳子翻訳(2017年)「行動分析的“思考法”入門 生活に変化をもたらす科学のススメ」岩崎学術出版社(ISBN-13: 978-4753311224)
5. ニコラストールネケ著、山本淳一監修、武藤崇/熊野宏昭監訳(2013年)「関係フレーム理論(RFT)を学ぶ」星和書店(ISBN-13: 978-4791108626)
6. ラス ハリス著、武藤崇監修・翻訳、岩淵デボラ/本多篤/寺田久美子/川島寛子翻訳(2012年)「よくわかるACT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー) 明日からつかえるACT入門」星和書店(ISBN-13: 978-4791108190)
7. ラス ハリス著、岩下慶一翻訳(2015年)「幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない: マインドフルネスから生まれた心理療法」筑摩書房(ISBN-13: 978-4480843074)